

減災目標を達成するための取組状況

3) 新たな課題や取組

◆自由意見(取組を進める中での課題や取組の提案など)

- ・浸水想定区域が広範囲にわたり、対象世帯も多いことから、災害リスクの周知徹底に工夫が必要
- ・最大想定では、周辺に緊急避難場所となる場所が無い地区もあり、避難時の自主防災組織、自治会の共助活動の啓発に苦慮している。
- ・防災塾(防災講座)などでは、地域住民からJR羽越本線橋梁の改修についての質問が必ず出ることから、進捗状況等の情報提供を定期的にいただきたい。

(様式3-新たな課題や取組)

◆自由意見(取組を進める中での課題や取組の提案など)

・阿賀野川堤防整備に伴い樋門箇所が従前の20箇所から31箇所となった。洪水時は地元消防団や行政区で開閉操作をしているが消防団員不足や高齢化など、洪水時の開閉操作に困難を来す恐れがある。また、本年度は洪水が多く発生したことで開閉操作を多い箇所では2回実施した。これらの開閉操作をした樋門をはじめ、周辺の住宅に影響のある場所ではあらかじめ内水排水対策を講じる必要があり、地元土建業者(建設業協会と災害協定の締結済)に排水ポンプ作業を依頼しており、1箇所あたり、十数万円の委託料を支払っている。これらは財政的にも負担が大きく、町財政を圧迫している状況である。内水が発生し、かつ周囲の住宅に影響のある樋門は恒久的な排水対策として、例えば常設型排水ポンプの設置検討など何かしら対策が必要である。また、樋門箇所数が多く洪水の状況によっては地元業者の対応困難も想定されることから、今後の内水対策の在り方が課題となっている。これらは住民が安心、安全に生活ができるようにするための対策であり、住民避難などのソフト対策を進めるうえでも重要である。

・樋門の水位標示(数値のみ)に消防団などが苦慮している。例えば、県が設置している水位計のような色表示をすることで、例えば、この色まで来たら高齢者の避難タイミング(避難判断)だとか、何をしなければならぬかが分かるようにする必要がある。

・新潟県が阿賀野川(小松頭首工から県境までの間)及び常浪川の2河川の想定最大浸水区域図を公表後に、阿賀町ではL2対応の洪水ハザードマップを策定する計画がありますが、引き続き財源確保したうえで年次計画で実施したい。また、それ以外の河川についても県と協議しながら対策を検討する必要がある。